

質問に対する回答について
工事名)磐越自動車道 束松トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回答
1	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 122/141 金抜設計書 6 頁 数量明細表 5 頁</p> <p>継目工 I 型の数量について、本坑と明り巻工の数量のみで明り巻工中間の数量が計上されていません。ご確認願います。また、内空側の目地材の撤去は必要ないでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>継目工 I 型の数量は、DIIIa-(H)-C-RC2-K端部 : 34.834m、明り巻き打継目部 : 35.148m、合計 69.982m となります。</p> <p>なお、継目工の内空側の目地材は、コンクリートはく落防止対策工の施工範囲において、撤去が必要となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
2	<p>設計関係図書 質問に対する回答書 12 設計図 トンネル 65 頁</p> <p>「吹付コンクリート A (t=15cm) K」の数量について、質問回答 12-4 にて回答のありました数量に基づき数量を確認したところ、数量は「8,352m²」となります。閲覧資料を確認したところ、「DIIa (H)-AFS-K」パターンにおける消火栓設備の箱抜工の増減数量にて、設計図と閲覧資料の増減数量が異なっているため差が出ております。現在の数量は閲覧資料の数量となっており、設計図数量と単価数量が一致しておりません。設計図・数量明細表のどちらが正しいかご教示願います。</p> <p><消火栓設備></p> <p>○ 設計図 : 吹付コンクリート 18.010m²</p> <p>○ 閲覧資料 : 吹付コンクリート 18.780m²</p>	<p>令和7年7月31日掲載の訂正公告をご確認ください。</p>

	<p>設計関係図書 設計図 参考図 19 頁 「ロックボルト工 C (L=3.0m)」の 数量が「5,676 本」となっておりま すが、設計図を元に数量を確認し た結果、「5,681 本」となります。 設計図及び閲覧資料を確認したと ころ、「D I -a (H) -K」パターンの ロックボルトの軸力検査の控除数 量にて差が出ております。 閲覧資料では「D I -a (H) -K」パタ ーンにてロックボルトの軸力検査 の控除として 5 本控除されており ますが、参考図を確認したところ、 「D I -a (H) -K」パターンにてロッ クボルトの軸力検査の控除は記載 がございません。 現在の単価数量は閲覧資料の数量 となっており、設計図と閲覧資料 で数量に差が出ておりますが、ど ちらが正しいかご教示願います。</p>	<p>ロックボルト工 C (L=3.0m) の数 量は、5,681本となります。 交付図書の一部に誤りがありま したので後日訂正いたします。</p>
3		

	<p>設計関係図書</p> <p>設計図 トンネル 68 頁</p> <p>設計図 参考図 19 頁</p> <p>「ロックボルト工 C (L=4.0m)」の数量が「3,108 本」となっておりますが、設計図を元に数量を確認した結果、「3,097 本」となります。</p> <p>2 頁の数量総括表及び閲覧資料を確認したところ、「D II-a (H) -AFS-K」パターンについて、以下の 2 点により数量が差が出ております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○箱抜工「誘導表示板 (A) 左側」の増減数量 <p>⇒設計図と閲覧資料で増減数量が異なっている</p> <p>設計図：ロックボルト再打設 4.0m*3 本</p> <p>閲覧資料：ロックボルト再打設 4.0m*4 本</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロックボルト軸力検査の控除 <p>⇒参考図では 5 本 (2 断面) となっているが、数量が控除されていない。</p> <p>数量算出要領 (P15-41) に基づけば、ロックボルト軸力検査箇所は数量控除となる。</p> <p>なお、閲覧資料は 5 本 (1 断面) 分のみ控除されている。</p> <p>設計図算出数量、設計図の数量総括表、閲覧資料とそれぞれの数量に差が出ておりますが、どの資料の数量が正しいかご教示願います。</p>	<p>ロックボルト工 C (L=4.0m) の数量は、3,092 本となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
4		

5	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 46 頁 設計図 参考図 19 頁 「ロックボルト工 C (L=6.0m)」の 数量について、設計図を元に数量 を確認した結果、設計図 2 頁の数 量統括表と以下のパターンの計算 結果の数量が一致しません。 $\langle D\ I-L(L)(H)-K \rangle$ ○設計図総括表 : 548 本 ○設計図計算 : 555 本 $\langle D\ I-L(R)(H)-K \rangle$ ○設計図総括表 : 526 本 ○設計図計算 : 514 本 内容を確認した結果、以下の 2 点 により差がでております。 ○避難連絡坑取合部 補強ロック ボルト B \Rightarrow 「D I -L(L)(H)-K」に計上する ころ、「D I -L(R)(H)-K」に計上され ている。 設計図 46 頁では避難連絡坑取合部 は「D I -L(L)(H)-K」と なっている。 ○ロックボルト軸力検査の控除 \Rightarrow 参考図では 5 本 (1 断面) となっ ているが、数量が控除されていな い。 数量算出要領 (P15-41) に基づけ ば、ロックボルト軸力検査箇所は 数量控除となる。 設計図算出数量、設計図の数量総 括表、閲覧資料のそれぞれの数量 に差が出ておりますが、どの資料 の数量が正しいかご教示願いま す。</p>	<p>ロックボルト工 C (L=6.0m) の数 量は、1,236 本となります。 交付図書の一部に誤りがありま したので後日訂正いたします。</p>
---	--	--

6	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 27/141 「ロックボルト工 E (L=4.0m)」の数量について、設計図を元に数量を確認した結果、設計図 2 頁の数量総括表と以下のパターンの計算結果の数量が一致しません。</p> <p><DIIIa (H) -C-RC1-K></p> <ul style="list-style-type: none"> ○設計図総括表 : 159 本 ○設計図計算 : 152 本 <p>閲覧資料を確認した結果、閲覧資料では交差部の補強ロックボルト「7 本」が増減数量として計上されており、この差が出ております。</p> <p>設計図を確認した結果、該当パターンの交差部補強ロックボルトが確認できません。</p> <p>「DIIIa (H) -C-RC1-K」における交差部補強ロックボルトはどの箇所を指しているのかご教示願います。</p>	<p>ロックボルト工 E (L=4.0m) の数量は、323 本となります。</p> <p>なお、DIIIa (H) -C-RC1-K には交差部がないため、補強ロックボルトの対象はございません。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
7	<p>設計関係図書 設計図 参考図 9、10/45 割掛対象参考内訳書 6 頁</p> <p>【参考図】坑口切付工図に継ぎ材 (L-50 × 50 × 6) が表記されています。数量表に表記がありませんが計上しないとの解釈でよろしいでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>坑口切付工における継ぎ材 (L-50 × 50 × 6) の数量は、1108kg (起点側 623kg、終点側 485kg) となります。</p>
8	<p>設計関係図書 設計図 軽沢橋 115/124 軽沢橋 (下り線) 特殊支保工数量表 (その 1) (参考図) で、リース品以外の横桁、受け桁、支持杭等の H 型鋼は、工事用仮桟橋と同じように、中古品・スクラップ控除と考えで良いか。ご教示ください。</p>	<p>設計図 軽沢橋 (下り線) 特殊支保工数量表の備考に「リース品」と記載の項目以外は、中古品・スクラップ控除とお考えください。</p>

9	<p>設計関係図書 特記仕様書 24 頁 数量明細表 1/18 数量明細表より、道路掘削・土砂の 数量は 3793.8m³ ですが、特記仕 様書には土砂区分・土砂 A、B と記 載があります。土砂 A、B 各々の数 量をご教示お願い致します。</p>	<p>関連する設計図書を確認の上、貴 社にて算出してください。</p>
10	<p>設計関係図書 特記仕様書 24 頁 設計図 トンネル 114/141 特記仕様書と設計図・トンネルに ソイルセメント盛土 A の記載があ りますが、ソイルセメント盛土に 使用する土砂の土砂区分は土砂 A でしょうか。ご教示お願い致します。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えく ださい。</p>
11	<p>設計関係図書 設計図 本線 21~27/35 本線盛土の下部路床材は、道路掘 削・構造物掘削・ずり処理工のう ち、どの土砂または軟岩を使用す るのかご教示お願い致します。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えく ださい。</p>